

学術講演会

中国における人口問題と農業生産請負制とについて

何 肇 発
 謝 小 彬

中国社会学学会理事、中山大学社会学部学部長何肇發教授が1988年5月24日～6月1日の間、来日、関学社会学部で「現代中国の人口問題」「中国における農業生産請負制について」と題する二つの学術講演を行った。

中国は世界一番人口の多い国であり、その12億の人口の中に、農村人口は約80%以上を占めているのである。膨大な人口をコントロールするため、中国政府は「ひとり子政策」を始め、一連の計画生育政策を実行し大きな成功を収めた。しかし、他方、中国農村請負制の成功は、農民を豊かにし、計画生育諸政策にも巨大なインパクトを与えたのである。それだけではなく、ひとり子の教育問題、老人問題など「ひとり子政策」自身のもつ問題もあり、これらの問題提起は、いわば発展途上国のもっとも典型的な問題—人口問題と農村問題への社会学者のチャレンジである。以下は何教授の講義の記録から整理、要約したものである。

一. 農業生産請負制について

1. 人民公社制度の功罪

新中国の成立した一九四九年以来、中国の農村改革は三つの段階を経た。すなわち①土地改革②農村封建制度・地主の抑圧をなくす③人民公社制度に入る。土地改革の後、地主の抑圧をなくして農村の生産関係は大きな変化があった。農民の生活もある程度豊かになったが、しかし、農業の経済性および生産の合理性に対する十分な研究を行わなかった時点にいわゆる「駆け足で共産主義に入る」といった「左」のスローガンの影響で急に人民公社制度を採用したため、多くのマイナス作用をもたらしてきた。人民公社の時代では、土地は全て国家所有制で、一切の機械、労働力、生産方式、食糧野菜の生産計画など国がコントロール

した。北西部の人口の少い、耕地が広い地域では人民公社制度は農業の生産力の向上に貢献したが、ほかの地域の農民の要求に十分こたえることはできなかったのである（中国では中部、東南部の約60%の国土に90%の人口が生活していて、北西部の約40%の国土にただ10%の人口だけいる）。また、人民公社制度は生産の発展を妨げる硬直性は多く見られた。たとえば毎日の生産内容について、生産隊長が指示を与えるが、しかし、おそらくその隊長はその地方の人ではなく、他のところからやってくる人であるから、生産の命令の仕方の問題がある。また、人民公社は家庭が生産単位という制度を破かいし、農業生産の合理性—たとえばどれくらいの土地にどれくらいの労働力が必要ということ—に対して、まったく注目しなかったのである。この意味で、人民公社制度は農村の生産力の発展を大きく制約し、農民の生産の積極性と自由意思をなくしたのである。そこで、1978年中国安徽省では、農民たち自分からすすんで人民公社制度をやめ、生産請負制を実施したのである。

2. 請負制の初歩的成功

農民から自立的にやり出した生産請負制は、政府から認められ、1984年から一斉にそれに変わり、中国全体の農村も大きく変わった。つまり、農業から工業への変化が見られたのである。

私は中山大学学生を連れて広東省の三つの農村を実証調査し、農民の生活と都市労働者の生活を比べた。以下の一部のデータは、請負制を実行してからの農民の生活には、過去にない変化があったことを説明しているのである。

表1 農民の年間収入の変化

単位：元

年	村名	Lingjiao	Guizhou	Chen
1978		851	163	210
1984		1551	709	765

表2 広州市労働者の収入との比較
単位：元

	Highest	Average	Lowest
農民	2751	1244	435
労働者	860	725	401

表3 家庭における家電製品保有量の比較 (1983)

	テーブルコーダー	白黒テレビ	カラーテレビ	洗濯機	冷蔵庫
農民	50.4%	74.5%	10.4%	32.1%	7.5%
労働者	63.0%	79.5%	4%	20.5%	4%

(家電製品のほとんどは日本製で「ナショナル」や「シャープ」などが主流である。)

表4 エンゲル法測の統計比較

	食料	衣服など
1978	82%(内主食78%)	12%
1983	44%(内主食20%)	56%

そのほかにたとえば住宅面積も1978年の1人平均9m²から1984年の23.2m²に達し、中でも鉄筋コンクリートの建物もかなり増えた。都市部では80年代初めの広州市は1人平均4m²、上海では2.8m²の低い率であった。

以上の統計から、豊かな農民の生活は都市の労働者の生活をはるかに越えたことがわかる。しかしこれは中国広東省の豊かな地域の三つの農村の統計であって、全農村人口にこのような大きな変化があるとは限らない。同じ広東省でも貧しい村が多くあり、農業請負制の発展も平均的ではないのである。

それにしても、農業請負制は、基本的に成功したのである。成功を収めたもっとも重要な原因は、農村の労働力が大きく解放されたことである。マルクス主義の考えでは所有制の問題を解決すれば生産性は上がるということだが、しかし農村の場合は変らなかった。われわれは農民の地位を高めるだけで生産性には注意を払わなかったのである。昔の農村の労働力の構成は血縁関係で組み立てられていたが、人民公社は家庭が生産単位という制度をなくした。請負制から、農村の機能が回復され、家庭は国から土地を借りて、労働力をうまく割りあてることができる。最低限の労働力を使い、国に収める量を生産すれば、それ以外

の人員は、他の仕事に従事することができる。そこで労働力の分配の合理性が生まれたのである。農民収入の増加はほとんど農業以外のものである。たとえば広州市内の建築業、サービス業への進出などがそうである。

3. 請負制からの問題点

請負制は一方農民の生産性をあげ多くの労働力を解放したが、他方多くの問題を生み出したのである。

①農村の余剰労働力の問題。2000年になると、農村から約3億の余剰労働力が生じる。それをいかに活用していくかは大きな問題である。「土地を離れても生まれ故郷を離れない」という昔のことがあるように、どんどん郷鎮企業、小城鎮をつくればいい(注、鎮—中国の末端行政単位)という費孝通先生の見方があるが、しかしそれは無制限に発展できないと思う。

②請負制は、農民の土地への執着性を減少させ、全国の食糧生産量は年々減っている傾向がある。1985年は4.2億トン、86年3.8億トン、87年4.0億トンだったが、一人あたりの生産量はわずか300kgしかない。世界平均の400kgよりも低い。そして貧しい農村の農民が豊かな農村へ流入することも大きな問題である。

③一部の農民は非常に豊かになった。金を住宅設備・家電製品に使ったがたくさん買う必要はない。特に中国農村の場合、昔から銀行に貯金する習慣はないから、余ったお金をどう使うかは大きな問題である。広州農民の高速道路への投資などは一つの方向であるが、国の指導と法律の設定は急ぐことであると思われる。

二. 人口問題について

1. ひとり子政策の必然性

人口問題はあらゆる国にとって大きな問題である。特に中国の人口問題は世界にとっては非常に大切である。1949年から1986年まで、中国の人口は4億5千万から12億に増加した。毎年の国民総収入の1/3が新しく生まれた人口を育てるためのものとなってしまったのである。毎年の就職人口は2000万人を越えている。このように、人口問題を解決しないと国の建設資金に国家収入をまわ

す余裕がないし、食糧さえ自給自足できないのである。文化教育の面から考えても人口を減らすことは重要である。最近の統計資料によると中国の小学校進学率は94%、中学進学率は88%、高校進学率は50%、大学の進学率はわずか5%である。このままでは世界の科学技術の発展についていけない。経済発展の決定的要素は教育であり、日本の発展はそれを証明する絶好の例である。

1970年代までの出生率で計算してみると、2060年には中国の人口は44～45億に達する可能性がある。それはほぼ現在の世界総人口にあたる。そうすれば地球上の2人に1人は中国人となってしまう。中国の人口問題はもはや中国だけの問題ではなく世界の人口問題であり、中国の人口政策も世界の人口政策の一部である。

2. マクロコントロールの成功と問題点

以上のような背景で1970年代後期から、本格的に「ひとり子政策」が行なわれている。中国の人口における出生率は1970年の33.59%から、今の17.9%になっている。また、中国女性の結婚年齢は1950年代の平均19才から60年代の19.8才、そして81年の22.8才になっている。ひとり子世帯は3000万戸あり、全体の42.3%がひとり子となっている。そうすると、現在は人口増加率が低下したことにより、低い死亡率、低い出生率、低い自然増加率となっている。基本的には人口のマクロコントロールは成功したと言える。

他方、ひとり子政策のもたらした問題点も少なくない。まず注目されたのは、ひとり子の教育問題である。つまり、子供に対する過保護、子供を大切にすぎることである。親たちの文化・経済の力がすべてひとり子に集中してくる。ひとり子の場合の中国の家族構成は逆ピラミッドになる(老人4、両親2、子供1)。それは子供の人格形成の上で非常に不利である。2年前アメリカのハワイで開催された「中国におけるひとり子の教育問題」国際会議で、ひとり子の精神的成長は健全ではなく、集団性に欠けることなどが指摘された。こういう人口構成の型は社会の発展に対して非常に不利である。たとえば老人問題、労働力が弱くなるなどの問題はもっと深刻化されるであろう。もし中国の人口問題をコントロールの面だけを考え、同時に生まれた多くの社会問題を無視す

ると、中国の人口問題は真に解決できないと思う。

3. 農村請負制と人口問題との関連

中国の人口問題の中でもっとも深刻なのは、やはり農村の人口問題である。前にのべた進学率の中に小、中、高校に入らない人はほとんど農村部にいる。そしてこの傾向はいまも増大している。しかし農村におけるひとり子の性格問題は都市ほど大きくないのである。なぜなら生産請負量は家族構成員の数によって配分されるので請負制にしてからは、非常に男子の労働力が必要になってきた。そういうことから、農村ではひとり子ではなしに、多くの子供をつくりはじめた。農村におけるひとり子政策の実施の困難は人民公社制度の撤廃と深い関連がある。まず第一、人民公社制度があった時と比べると、いまの農村の社会福祉事業は小さくなった。当時、ひとり子家庭では各種の福祉奨励があったが、それも少なくなった。その上中国には昔から「多子多福」という伝統的な風習がある。第二、人民公社時代に比べると、政府の統制力が弱くなった。人口の計画性、ひとり子政策の宣伝なども請負制からの人口移動率がはげしくなるにつれて、非常にむずかしくなった。実際は生産請負制を実行してからの農村、少なくとも広東省の農村におけるひとり子政策の実施はうまくいかなかったのである。私は広東省の農村を見学した時、農村の幹部に聞いてみたらみんなひとり子政策をとっていると云ったが、実際に農村の幼稚園の子供にきいてみると、多くの子供が自分以外に兄弟姉妹があると答えた。広東省の調査では農村の場合ひとり子以外の子供が生まれているのは29%に達した。

前にのべた農業請負制が生じた諸問題と関連して、一見非常に矛盾した現象がある。すなわち一方農業人口は工業に進出し、大きな余剰人口を作り出し、食糧の生産も減っているが他方、依然として多くの子供がほしいということである。

これらの発展途上国の特有な問題を解決するため、社会学者の多くの調査・研究を期待している。たとえばいかにして農村における教育を普及し、請負制の実施後の人口をコントロールし、一人子の教育など。われわれも世界先進国の意見を聞きたい。特に日本の経験から学びたいのである。